

南海地震に備える

香川県防災局

乃田 俊信

<23>

防災クイズ

この「南海地震に備える」シリーズも、回を重ねて23回目、来月号がいよいよ最後となります。そこで今回は、今までお話ししてきたことを「防災クイズ」にまとめてみました。全問、○×式です。気楽にチャレンジしてみてください。

- 【問題】
- ① 今世紀前半にも、南海地震が発生すると懸念されている。()
 - ② 南海地震などの海溝型地震は「活動期」と「静穏期」が交互にやってくるが、専門家は、「兵庫県南部地震以降、西日本が活動期に入った」と警告している。()
 - ③ 南海地震による香川県の震度は、一

部の地域を除き震度4以下と予測されており、大きな被害は発生しないとされている。()

- ④ 南海地震による津波の被害が予測されているが、これは太平洋側のことです。瀬戸内海側は震源地と反対側にあるので、人命に影響を及ぼすような被害はない。()
- ⑤ 阪神・淡路大震災では、住民のみならず「自治体、警察、消防等も被災者であった」という点が大きな特性であり、初動(人命救助)の段階で十分に機能を発揮できなかった。南海地震においても同様のことが懸念されている。()
- ⑥ 阪神・淡路大震災では、建物などに閉じ込められた人の約80%を、消防、自衛隊等が救出した。災害時に頼りに

なるのはやはり消防・自衛隊である。()

- ⑦ 阪神・淡路大震災の最大の教訓の一つとして、建物の耐震対策(耐震補強、家具の転倒防止等)の重要性が挙げられている。()
- ⑧ 防災は県や市町の税金で行うべきであり、個人で防災にお金を使うのは、ほとんど利益が無く、無駄である。()
- ⑨ 防災対策は、自らの身は自ら守る『自助』が原則である。()
- ⑩ 地震(災害)に遭う確率の最も高い自宅を安全な場所にするのが第一



給水袋に水を入れて訓練する人たち。三重県鈴鹿市で今年9月1日、高木香奈撮影

であり、そのための耐震対策(耐震補強、家具の転倒防止等)が重要である。()

- ⑪ 地震は前触れなく発生し、私たちをパニックに陥れるが、これは避けられないことであり、準備をしても仕方のないことである。()
 - ⑫ 非常持ち出し品は、家族が避難生活をするにあたっての必需品であり、できるだけ多くのものを持っていくと避難生活が便利である。()
 - ⑬ 大地震が発生したら、慌てず、まず落ち着いて、火の始末をする。()
 - ⑭ 避難行動の際には、一部の地域を除き、車は使わず、徒歩で避難する。()
 - ⑮ 最近では地球規模で大洪水などが起きており、南海地震の発生も間近に迫っている。香川県民も、「まさか」を「もしかしたら」に意識改革することが必要である。()
- ※回答は表面「11月のイベント情報」末尾に掲載しています。
- 【次号のテーマ】
次号は、いよいよ最終回となります。「南海地震に備える」の「まとめ」をお話します。